

やさしさだより

平成 27 年 1 月 15 日
尼崎市立 浜小学校
人権教育部 第 8 号

皆様、新年明けましておめでとうございます。

今年もどうぞよろしくお願いたします。

子どもたちの冬休みはいかがでしたでしょうか。新年を迎えて子どもたちの気持ちを新たに頑張ろうという思いを感じました。

さて、昨年 1 2 月の人権週間に持ち帰らせました「ほほえみ」を読まれてのご意見・ご感想をたくさん頂戴いたしました。その一部を紹介させていただきます。

【 1 年 】 「ないともまるもの」

・親子で共通のテーマについて話し合うということが今までなかったので、どのように教えたらいいいのか不安でしたが、心配はいりませんでした。親の知らなかった部分が見えて成長していることを知り、うれしく思いました。

・私にとって「家族」はとても大切な存在です。人生いろいろなことがあります、うれしいときも悲しいときもつらいときもそばにいて、支え合い、励まし合える家族でいたいと思っています。

・おかし大好き、ゲーム大好きで困っていました。でも、質問してみると、意外な答えが返ってきて、ちょっと安心しました。何が大事なのか、本当はわかっているんだなあと思いました。

・娘とともに考えました。「家族」の次に「友達」を選んでいました。娘にとって人のつながりがとても大切なことと感じていることを知ることができました。

・「ないともまるもの」以外にもいろいろなお話を読みました。子どもと久しぶりにたくさんのお話を読みました。こんな時、どうする？と一緒に考えることができ、楽しい時間を過ごせました。

【 2 年 】 「ぼくって たからもの」

・子どもはたからもの以上の存在です。毎日、一緒に笑って一緒におふろに入って、一緒に寝る時が、本当に幸せです。

・短い文ではありますが、心がほっこりします。自分が子どもの頃に親に抱きしめられたり、なでられたりしたことを今でも覚えています。何かあったら、親が手をさしのべてくれる…。子供心に安心していました。これからも、子どもを抱きしめていきたいです。愛情を持って子どもの成長を見守っていきたいです。

・「いつもしかってばかり」のお母さん、という言葉には、ドキッとしました。いつも叱っているばかりじゃなく、ギュッと抱きしめてあげることが、「あなたが大切」と伝えているのだと思いました。

・しみじみとほっこり温かくなりました。下の子が産まれてから、ゆっくりと抱きしめることが少なくなってきましたので、この機会にゆったりとした気持ちで子どもと向き合う時間をとりたいです。

・黙って抱きしめることの大事さ。子どもに与える安心感。小さいときはよくしていたけれど、最近少なくなっているように思いました。また、ギュッと、抱きしめてあげようと思います。

【 3年 】 「だいこんとにんじん」

・子どもが何気なく発した言葉の中にも、差別的な表現があったりしました。それを正しく導いていくのが、親のつとめだと思います。これから、たくさんの人と出会っていくと思いますが、相手の良いところを見つけ、誰とでも仲良くできる人になってほしいと願っています。

・嫌なことを言ったり、傷つくようなことをしたりしてはいけないと思います。優しい気持ちや思いやりのある人間に育っていくよう、子どもと一緒に学んでいこうと考えています。

・子どもと一緒に、だいこんやにんじんたちの気持ちを考えました。大人でも考えさせられる作品でした。

・子どもに教えることはできるのですが、いざ、自分がその場に遭遇すると、なかなか表現できずに後悔してしまうことがあります。身をもって、子ども達に示していきたいです。

・いくつかのお話を読ませていただきました。「人権」を考えると難しくなりますが、「ほほえみ」を読んで、心が温かくなって、ちょっと自分と向き合ってみようと思いました。

【 4年 】 「やくそく げんまん」

・親としてどういうふうに言ってあげればいいのか、考えさせられました。どうしても

仲の良い子とばかり一緒にいるので、みんなと仲良くしてもらいたい。たくさんの友達と交流を持ってもらいたいと思いました。「ほほえみ」を通して、子どもの友達関係を話し合うことができました。

- ・人の気持ちを思いやったり、困っている人に声をかけたり、また、違っている人には、それは違うと言える勇気も必要だと思います。正義感のある大人に育ててほしいと思い、日々子育てをしています。

- ・女の子の間では、よくある話だと思いました。娘には、困ったことがあれば相談してもらえるような環境を築いておこうと強く思いました。そして、こうなさい、あーしなさいではなく、どうしたらいいだろうかと、話し合いたいと思います。

- ・よくあることで、難しい問題だなと思います。いつでも一緒に遊べる仲良しがいるのは、子どもにとって嬉しいことでしょうし、親としても少し安心してしまいます。それなのに、なぜか不安になる、これで良いのかと考えます。(後略)

- ・自分が子どもの頃と同じ様な経験をしたことがあります。(中略) 本当にわかり合える友だちならけんかをしたりしても、また、仲直りして元に戻れるはずだと話をしています。

【 5年 】 「わたしを 伝える」

- ・子どもだけでなく、大人も「自分」を伝える事はできていないように思います。気持ちを伝えることはとてもむずかしいです。相手を思いやる心があってこそ、自分も伝えることができるのではないかと思います。

- ・とても共感しました。子どもの友達とのつきあい方を見ていて気になっていたことと似ていました。子どもたちが今抱えている問題かもしれません。

- ・「ほほえみ」を読んで、心が温かくなったり、自分もそう思うことがあるなあと、思ったりする話がたくさん出てきました。生命を大切にし、いろいろな事に「ありがとう」という感謝の気持ちを持って行動できる人になりたいと思いました。また、子どもにもそうなってほしいな、と思いました。

- ・家でもお互いが気持ちを伝え合うことを普段から心がけていきたいと思います。言わなければ伝わらないということを話していきたいです。

- ・人間関係というのは、本当にむずかしいと思います。子どもには、自分も相手もお互いに気持ちよく、納得のいく話し合いをしてから行動するようにと話しています。大人でもなかなか難しいことなのですが…。

【 6年 】 「権利の木」

・どの作品も考えさせられ、そして、心に響きました。普段、わかっている口に出すことを恐れていた、ついつい見て見ぬふりをしていたりすることが、どれだけあるだろうかと思いました。

・私自身が考えてみても、どれが一番大切なのか、悩んでしまいました。子どもの意見をきいて、日頃こんな考えをしているのかと、気づくことができたのでよかったと思いました。

・今は昔に比べて、自由で平等になっていると思いますが、他人への思いやりはなかなか増えていないように思います。自分勝手なために他人の権利を奪って傷つけている人が多いように思います。最近の子どもも、権利ばかり主張して、義務を果たしていないように思いました。

・私たちは、ありがたいことに何の不自由もなく、生活することができます。そのことに感謝することもなく、当たり前になってきています。当たり前を超えて、それ以上に欲が出てきているように思います。

・考えさせられることがたくさんありました。当たり前のようにできている生活が当たり前でできない国もある、ということを知ってほしいと思います。自分たちが恵まれた国で生活できていることに気づいて、いろいろなことに感謝しながら生活していけるように、親がその姿勢をみせられるよう気をつけていきたいです。

< ご協力いただきましてありがとうございました。 >